
平成 30 年度 交通に関する福川地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 14 日（木） 10：00～11：30

場 所：福栄保健センター

事務局：萩市、福栄総合事務所、日本工営(株)

ご参加：住民の皆様 8 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：萩～吉部間は 10 便あるがあまり乗っていない様である。要因は分かるか。

事務局：運賃が高いことが要因ではないかと思う。片道 1,120 円となっている。なお、高校生は定期代の補助があるが、高齢者対象の補助はない状況。

参加者：路線バスのダイヤは通学には便利だが、一般利用者、特に通院には時間帯が合わないから利用が少ないのだと思う。また、ぐるっとバスと萩のまあーるバスの連携がなっていない。まあーるバスは東光寺まで来ているが、それとつなぐ方法があるのではないか。萩に行く理由で一番多いのは病院だと思う。路線バスの時間が悪いから利用が少ないのだと思う。大井経由は、萩～大井間の利用が多い。紫福からお客は乗っているが大井を回るから時間がかかる。

事務局：路線バスについては、福栄からの運賃はそれほど高くないため、ダイヤがニーズに合っていない可能性はある。吉部と東萩駅間のダイヤは改善の余地があると思うので、交通事業者との協議が必要となる。具体的に何時の便の話か教えていただきたい。

参加者：旧萩市内 13 時発の便は時間が悪いと思う。堀越 14 時発も時間が悪いと思う。

事務局：吉部には防長交通の営業所があり、東萩駅と吉部間を結ぶバスも運行されている。

経路地の見直しにより、バスを効果的に活用する方法を考える事は重要な課題である。なお、阿武町との合併により、堀越以降の路線が無くなり、その名残もあって経路地が多岐にわたっているとのこと。大井を経由せずに押原経由で旧萩市内に行けるようにという要望は承知した。

ぐるっとバスとまゝのバスの連携は重要な視点だと思うが、ぐるっとバスは交通空白地を埋める路線であり、ぐるっとバスとまゝのバスが接続して旧萩市内まで結ぶと、路線バスと競合してしまう。

参加者：ぐるっとバスは山崎付近では路線バスと同じ道路を通っているがどう違うのか。

事務局：旧萩市内への地域間路線は交通事業者で担う路線として必要であるため、ぐるっとバスで旧萩市内とは結べない。ご指摘の競合している部分は、地域内路線であるので役割が異なる。

参加者：地域をどうとらえるかではないか。「福栄地域」ではなく、「萩市」全体で考えてはいかがか。「福栄地域」とするからぐるっとバスの利便性が低下しているのではないか。

事務局：地域間路線は交通事業者に担ってもらう路線である。あくまでぐるっとバスは交通空白地対策として運行しており役割が違う。ただ、この仕組みの中でより利便性が上がるように検討している。

参加者：理解できるが、住民としては歯がゆいところである。

事務局：資料2、P19の将来像のように、幹線は幹線で検討が必要だが、支線の運行形態もより住民ニーズに応じた形を検討する必要がある。すべてのニーズをぐるっとバスだけでは満たせないなので、あらゆる手段を検討して支線交通を検討していきたい。

参加者：ぐるっとバスはコミュニティバスという理解でいいか？

事務局：そうである。

参加者：ぐるっとバスはバス停が決まっているのか。

事務局：バス停が決まっている。

参加者：ぐるっとバスのバス停の位置が地域内で本当に利便性が高い位置にあるか、疑問がある。バス停の位置は見直せるのか。

事務局：見直しは可能である。

参加者：降車時もバス停なのか。

事務局：基本はバス停だが、家の前で降りてもらっている場合もある。デマンド運行時もバス停での乗降を基本に、ご自宅の近くにも伺っている。但し、車両が大きいので、自宅付近に乗入れられない場合もある。

参加者：地区社協で話題になるのは、ぐるっとバスの利用が少ないということと、路線バスの時間が悪いということ。結局タクシーで旧萩市内に行くので往復で1万円かかる。

事務局：福栄地域のデマンド便の利用方法については、デマンド便は住民の方へ理解して頂くことが難しいことと、2日前の予約が必要で利便性が悪いと思っている。

参加者：あまり利便性を上げすぎると、費用等の問題があり限度があるのではないか。

事務局：利便性向上の余地はあると思っている。

参加者：むつみ地域から参加している。むつみ地域と福栄地域ではぐるっとバスの運行形態に違いがある。旧萩市内に行く方は路線バスの時間に合わせてデマンド便を利用している方が多い。

事務局：各地域でぐるっとバスの運行形態は異なる。デマンド便のメリットは時間が緩やかに指定できること。運行側としては、多くの利用者を回らなければならず苦労はある。利用方法が周知されているかということは課題だと感じており、周知を図る必要性を感じている。また、現在の運行形態の改善について検討したい。

参加者：ぐるっとバスを利用したことはないが、将来利用する可能性があると思い参加した。ダイヤを見ると所要時間は往復で約1時間となっている。時間に余裕があるように見えるので、午前中の便を増やすようなことはできないのか。

押原経由の路線バスは朝の便は早朝で使いづらい。

また、福井から紫福への便は少ない。農協が紫福にあるので移動する人はおり、マイカーがある方はいいが、無いと利便性が悪い。

防長交通は利用が少ないのであればバスを小型化すると経費が抑えられるのではないか。

参加者：むつみ地域の農協が紫福地区の農協と統合されたため、むつみ地域と紫福地区間を結ぶルートがぐるっとバスで運行されるようになったが、紫福地区での待ち時間が長く利用者が少ない。

事務局：ぐるっとバスの効果的な運行を行う必要がある。地区内路線については、ぐるっとバスの他にも自治会での自家用有償旅客運送やスクールバスへの混乗なども考えられる。コミュニティ交通は、よりきめ細かいニーズを支えたい。ぐるっとバスや住民の支えあい交通、NPO などを含めて総合的に検討したい。

車両の大きさの話について、ぐるっとバスは利用が多い便もあるので今のワンボックスサイズを使用している。他の便で利用者が少なくても、最大需要に備えて今のサイズになっている。

4. 閉会

事務局：様々のご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上